

台湾人、卓照明さんのこと

堀 泰雄（エスペランチスト）

台湾に、もう結構ながい知り合いの卓照明さんという人がいる。エスペラントの大会にはかなり頻繁に来ているので、よく出会うが、彼の来歴などは聞いたことがなかった。エスペランチストは、いつもエスペラントで話すので、彼が果たして日本語が話せるのかも定かではなかった。昨年、平成から令和に年号が変わった時に、日本の年号問題についてエスペラントで書いて世界に送った。それを読んで、卓さんから、結構長い自分の来歴を語る文章が来た。今日はそれを翻訳しながら、書いてみたい。



台湾は、戦前には日本の植民地であった。1894年に始まった日清戦争で清朝が敗北したため、翌1895年4月17日に締結された下関条約（馬關條約）に基づいて台湾は遼東半島、澎湖諸島とともに清朝から大日本帝国に割譲された。これ以降、台湾は大日本帝国の外地として台湾総督府の統治下に置かれることとなった。左の地図は、戦前の日本の地図だが、中央下に台湾が載っている。「統治下におかれる」と書けば簡単だが、その陰には、抗日運動とそれに対する弾圧があった。ウィキペディアではこう書く。

「初期段階の抗日武装運動に対しては、武力鎮圧で対応していた。」「台湾の併合にあたり、台湾人には土地を売却して出国するか、台湾に留まり帝国臣民になるかを選択させた。1895年に台湾が大日本帝国に編入された

時、併合に反対する台湾住民は、「匪徒刑罰令」によって処刑された。その数は3000人に達した。抗日運動は、1915年の西来庵事件（タパニ事件）で頂点に達した。」

さて、卓さんは、1945年（昭和20年）の生まれである。これは、日本の敗戦の年である。卓さんは書く。

「私が生まれた時に私は日本の国民であり、名前は西原輝雄であった。日本の敗戦により、すべての台湾人は国籍を失った。台湾人は、一つは蒋介石のために、一つは自身が努力しなかったために、台湾国籍を持つ権利がなかった。」

卓さんはこう書くが、蒋介石や日本敗戦後の中国の事や蒋介石の事を知らなければ、何のことか理解できない。ウィキペディアではこう書く。

「1949年に蒋介石が国共内戦で敗れた兵隊、崩壊状態にあった南京国民政府を引き連れて台湾に移住してきたため、これ以降は事実上蒋介石・国民政府による台湾の直接統治が行なわれることとなった。」

中国では、蒋介石率いる国民党と毛沢東率いる中国共産党が中国の支配を目指して戦ったが、国民党は敗北し、蒋介石は台湾に逃げ込み、ここを最後の本拠地にしたのである。しかし台湾にはもともと台湾人（内省人）がいて抵抗したため、これを弾圧して、国民党の独裁政治が始まった。中国共産党は、台湾解放を目指したが、軍事力でアメリカ支援を受けた国民党には勝てず、それをあきらめた。現在の中国がいまだ台湾は中国の固有の領土であるというのは、このような歴史による。

卓さんの兄

「私の兄は、私より 18 歳上だが、私は彼に一度も会ったことはない。というのは、私が生まれる 6 か月前に、彼は徴兵名簿に登録され、日本海軍の志願兵になってしまったからだ。戦争が終わってからも、私の父はフィリピンからの彼から手紙を受け取っていたが、台湾に戻ることはなかった。政府によると、彼が戦死したという記録はないが、死んだ、ということになっている。彼の戦友が言うには、『彼は日本の敗戦の 2-3 日前にフィリピンのミンダナオでアメリカ軍との戦いの中で死んだ』という。その時彼は 19 歳だったから、妻もいなかったし子供もない。彼の名前西原守義は靖国神社にもない。私の家族は、日本政府から、靖国神社の祭典にも招かれず、彼の死に対して何の補償も行われていない。」

卓さんの義理の父

「私の義理の父は台湾人であるが、台湾生まれの日本人女性と結婚して早くから日本国民になった。彼は召集されて、中国、香港、ベトナム、最後にはシンガポールで戦った。彼は日本軍の糧秣の確保に当たった。シンガポールがイギリス軍によって解放されたとき、彼は連合軍の捕虜になって、日本にあった臨時刑務所に入れられた。アメリカの士官が彼に『あなたは中国に帰りたいか、台湾に帰りたいかそれとも日本に残りたいか』と尋ねた時、彼は台湾に帰ることを望んだ。というのは、彼の妻（私の義母）は 4 人の子供連れで台湾にいたし、彼らの両親も台湾にいたからだ。」



私の国籍

「私には、どこが自分の国なのかはっきり言えない。私の祖父は清国に生まれたから、祖国は清国だ。私の父は、台湾が日本の植民地になる 2 年前に生まれた。彼の祖国は清国ではないし、中華民国でもない。というのは、中華民国はまだ成立していなかったからだ。彼は、日本の国民学校の最初の卒業生でもあるので、祖国は？と問われれば、事実上は日本ということになる。彼は、日本の皇民化政策による皇民になることを拒否した。日本の敗戦後、彼は 36 年間中華民国時代を生きた。彼は日本語がペラペラで、日本政府関係の仕事には簡単につけたろうが、そうしなかった。彼は、日本の配下に入るのを潔しとしなかったからだ。」



最後に

紙面がないので大急ぎで終わりにすると、私は左の写真に大きなショックを受けた。卓さんは、抱っこされている子供らしいが、まったく日本の戦前のお正月の記念写真だ。右の女の子は羽子板まで持っている。台湾生まれの彼の義母は、2014 年に 95 歳で亡くなったが、俳句をたしなみ、家庭でのあいさつは「ただいま」「ご馳走さま」と日本式だったという。

「台湾人は親日的だ」などと、我々は軽々しく言いがちで、日本の台湾植民地時代の日本の圧政や皇民化については語られることが少ないが、これではいけない！と卓さんのエッセーに深く反省した。